

常任委員会レポート

総務産業委員会

議会改革を視察 群馬県川場村 令和7年7月8日 実施

調査事項

群馬県川場村では、「議会改革について」先進的な取り組みを実施しています。その内容や実績を研修しました。意見交換会では、双方の議員から活発な意見がありました。

川場村行政全般では、人口減少問題と移住定住対策、観光資源の活用、新庁舎の評価等を研修しました。人口減少・移住定住では特段の対策が打てず、人口は減少傾向にあります。観光資源では、道の駅川場田園プラザや川場スキー場に来客数が多く、村の活性化に繋がっているようです。また、令和4年11月から供用開始の役場新庁舎は村民からの評判も良いそうです。

議会関連では、議員の資質向上、議員定数・報酬、子ども議会、議会ライブビューイング、

議会広報について研修しました。資質向上については、研修会等への積極的参加を進めています。議員定数・報酬では、特別委員会にて12回の協議の結果定数変更なし、報酬は周辺自治体の状況を鑑み3万円の増額としました。子ども議会は、令和6年度に中学生22人が参加し実施されました。ライブビューイングは実施するも、見る人は少ないということです。議会広報は視察研修を行い改善したため、高評価をいただいているようです。

川場村と鳩山町は、地域性・保有する観光資源・生活環境等の違いを多々感じましたが、町議会の改革を推進するため、適合できる事項を改めて検証し活用していきたいと思います。

(日坂委員長)



川場村役場 役場前にて



会議室にて説明を受けている様子

《総務産業委員 一言コメント》

- ・＜議員定数・報酬等＞村会議員のなり手不足対策を講じているが、「議員になりたくても自ら手を挙げない人に議会から働きかけることはない」研修後の雑談での一言が印象に残っている。(日坂)
- ・＜斬新な庁舎に驚き＞コンパクトな木質新庁舎、特に議場が多目的会場となる可動収納型、オールフラットな構造が斬新であった。(石井 徹)
- ・＜子ども議会開催を＞中学生の目線で意見、要望を聞き、村の運営に役立っているとのこと。以前より当町議会でも子ども議会の提案もあり、開催したいと思う。(石井 計)
- ・＜川場村に追いつけ追い越せ＞共通の課題を持つ川場村、どのように検討し、決定していった

のか学べた。鳩山も議会改革をさらに進めていきたい。(野田)

- ・＜こども議会に感銘＞川場村新庁舎において、議会改革・人口減少問題・観光資源活用等について研修を受けた。なかでも、平成28年から開催しているこども議会は「今後の村政運営に役立てるため」ということで感銘を受けた。(森)
- ・＜農業・観光が魅力的＞客を引き付ける要因のある川場村は、地の利を生かし、農業・観光に取り組んでいる地区であった。(小鷹)



県外自治体視察研修報告

福祉文教委員会

オーガニック給食を視察 栃木県小山市 令和7年7月9日 実施

調査事項

小山市では、有機農法による米や野菜を使った給食の試験提供が始まっています。この取り組みは、環境に優しい農業を推進し、子どもたちの健康を考えたものです。

学校給食は、市内の小中学校34校で14000食実施されています。地産地消の取り組みも、お米は100%小山市産、牛乳は100%栃木県産。小麦パンは栃木県産、米粉パンは小山市産米粉を使用。小山市産農畜産物を積極的に使用しています。

給食で使用する有機米導入回数は、令和3年度は9回でしたが、令和7年度は50回。将来的

には100%を目指しているそうです。

2026年には小山市で「全国オーガニック給食フォーラム」が開催される予定だそうです。

オーガニック給食の役割は、有機米生産者を育て、環境を整え、学校給食で地産地消・食品ロス削減・食育・環境保全・地域経済の循環を学ぶこと。

「食をめぐる様々な情報を正しく読み解き活用する能力を育成することを目指している」と説明を受け、素晴らしい取り組みだと改めて思いました。

(中山委員長)



小山市議会 議場にて



会議室にて説明を受けている様子

《福祉文教委員 一言コメント》

- ・＜有機米導入に本気＞有機米導入に本気で取り組んでいるのが伝わってきた。小山市で開催される「全国オーガニック給食フォーラム」に行ってみたい。(中山)
- ・＜理想の給食に向かって＞埼玉ではあまり使われていない米粉パン（小山市産米粉使用）を年間20回も使っているそうです。すごい！理想の給食を追いかけたい。(野田)
- ・＜地場産有機農作物使用＞学校給食では、地場産の有機農産物を主に使用し、安心して安全な給食としている。市の姿勢が伺えた。(小鷹)

- ・＜自治体の支援と取り組みが必要＞学校給食では、農畜産物生産者の確保と安全な有機野菜の奨励など、自治体の支援と取り組みが必要だと感じた。(関根)
- ・＜オーガニック革命は＞トップマネジメントにより、JA、生産者などと官民一体の取り組みを進めていかないと、成功を見ることはできない。(清水)

